

モンシロチョウ

日本全土でごく普通に見られます。故・日浦勇氏によると、本種は比較的新しく日本に入ってきた移入昆虫だと言われています。年7回ほど発生し、静岡県では2月頃から発生します。

成虫は道端・耕作地・原野等に生息しますが、日当たりのよい所を好み、暗い林内には見当たらず、そういう場所にはスジグロシロチョウが生息します。

花の蜜を好み、春はダイコン、ネギなどの耕作地の栽培植物のほか、タンポポ類、ハルノノゲシ、カキドオシなどの耕地雑草の花によく集まります。夏はヒメジョオン、シロツメクサ、オランダガラシなどの帰化植物です。

幼虫の食草は、アブラナ科に属するものであればほぼすべての栽培種・野生種を食べますが、特にキャベツを好む傾向があります。



富士市での現状

海岸沿いの標高の低い所から標高の高い所まで、ごく普通に見られます。特にキャベツ畑がある伝法地区等では、多くの個体を見ることができます。旧富士川町域も同様の場所で見られますが、スギやヒノキの暗い林の中ではほとんど見られません。

モンシロチョウを確認したメッシュ

